

新潟 防災ジャーナル

安全立県宣言

< 第15号 >

(財)新潟県中越大地震復興基金「震災の記憶」収集・保全事業の一環として発行されています。

法団 中越防災安全推進機構

〒940-0062
長岡市大手通2丁目2番地6
TEL・FAX0258(36)8141



栃尾・半蔵金は今

建立する石碑について、大杉の切り株の前で話す住民たち。来春にはクローンの苗木も植樹する。長岡市半蔵金

復活 大杉再生へムラは一丸

ルポ・栃尾半蔵金



大杉再生へムラは一丸

旧村の文化財に指定されていた大杉は、高さが約50m、幹回りが約10mあった。老人会が毎年しめ縄を奉納し、住民に大切に守られてきた。2004年の中越地震で、半蔵金は震度6弱の揺れに見舞われ、当時の83世の大杉が半壊以上の被害を受けた。大杉は、住民が、クローン技術による再生計画に乗り出した。

苗木の増殖成功 来春、境内に植樹

2004年の中越地震で、半蔵金は震度6弱の揺れに見舞われ、当時の83世の大杉が半壊以上の被害を受けた。大杉は、住民が、クローン技術による再生計画に乗り出した。苗木の増殖成功 来春、境内に植樹

あの時... 中越地震で地盤が崩れ、雪の重みのために倒れた大杉。住民の心の支えだった。2005年1月4日、長岡市半蔵金

木が住民の心の支えに... 復興の足音は、大杉の再生を待つ人々の心と通じ合っている。大杉の再生は、地域の復興を象徴している。住民たちは、大杉の再生を、自分たちの未来への希望として、一丸となって取り組んでいる。

学び、支え合う交流

中越からメッセージを

おぼまつた中の8月14日、長岡市山古志に直向した。村に50頭、えられ、自分たちは生の言葉に、暮らしに届く。山古志で今年6回目、なご死んだ。住民はとる「牛の角突き」。生き残った牛を大変な巨大な牛が激しくぶつかり合い、勢子(せこ)の威力のいい掛けを崩すものもあった。声がかき、真剣勝負に。そんな中でも、地震客席はたびたびとよめ、の翌日に仮設牛場目にはその迫力にきりけり、角突きを再開した。角突きは国の重要無形民俗文化財の社長、形民文化財に指定。松井前二さん(68)は、松井前二さん(68)は、その伝承が、「伝統は守るものでは

被災地の復興に、「外家を再発見することが、人の存在は欠かす。あるだろう。そして、ここができない。復旧 私たち外の人間も、回復を支えるボランティアに、牛に届く。伝統や山のテイア、企業や自治体、暮らしから多くのことを伝授。企業や自治体、暮らしから多くのことを伝授。企業や自治体、暮らしから多くのことを伝授。

内さん(68)は、大杉の再生を待つ人々の心と通じ合っている。大杉の再生は、地域の復興を象徴している。住民たちは、大杉の再生を、自分たちの未来への希望として、一丸となって取り組んでいる。

被災地再訪

神戸新聞社 磯辺記者ルポ



被災地の復興に、「外家を再発見することが、人の存在は欠かす。あるだろう。そして、ここができない。復旧 私たち外の人間も、回復を支えるボランティアに、牛に届く。伝統や山のテイア、企業や自治体、暮らしから多くのことを伝授。企業や自治体、暮らしから多くのことを伝授。

内さん(68)は、大杉の再生を待つ人々の心と通じ合っている。大杉の再生は、地域の復興を象徴している。住民たちは、大杉の再生を、自分たちの未来への希望として、一丸となって取り組んでいる。



この夏、8人の大学生が農業実習にやってきた。ムラに笑顔があふれた。十日町市旧松之山町農田

復興通信

「田舎が絶対直される。こういう所大事になると思う。ずっとやってきた。しかし、ハズと振り返って、みたら、年寄りになって、と半生を振り返るのは、新潟県十日町市山古志の山古志で農業を営む竹内茂俊さん。同市は県内南部に位置し、隣の津南町と合わせ養蚕(つまみ)地方と呼ばれる養蚕地帯。養蚕の歴史は山の中の「話まった」といふと、多岐にわたる。多くの中山間地域を有している地域で、そのため早くから高齢化が進み、現在は山古志の約1割にあたる引退者がいわゆる引退者層と呼ばれている。竹内さんの住む山古志は現在19世帯、引退者層は当然に減少した。その結果、人口は三分の一に減少した。共同生活の悩みは「担い手の不足」▼「外の人かまってくる。自然と気が持たず変わって、いすれこういところでも生活したくない人に来てもらって、一緒に農業が出来たら。」竹